

ルビ入れの最新技術について

日本語の組版において、ルビは欠かせない要素のひとつです。

当社で導入しているルビ入力支援システムの特徴、
あわせてルビ入れの最新技術についてご紹介します。

■InDesignのルビ入力支援システム

ルビの指定は長い間手書きで行われていました。現在はWord上であらかじめルビを入れたテキストを入稿するのが一般的ですが、やはりルビ入れは編集者にとって負担の大きい作業です。

当社が導入しているルビ入力支援システムは、自動でInDesign文書上のすべての漢字に一括でルビを入れることができます。右表のように、モノルビ・グループルビもまとめて設定可能です。そのほか、同じ親文字に付いているルビを全文一括変更する、初出ルビのみを表示し以降のルビを非表示にするなど、様々な機能を備えています。

常用漢字であれば非常に高い精度でルビが入れられますし、難読漢字にも対応しています。ただし人名、地名などの固有名詞が多い歴史書などは一括ルビ入れが難しい場合があります。また、自動処理のため想定通りの読み仮名が入らないこともあり、このシステムでルビ入れを行った際は、当社でも出校前にチェックはしますが、お客様にも正しいルビが入っているか確認していただいています。

使用にあたってはInDesignバージョン等の条件もありますので、詳しくは担当営業までご相談ください。

①総ルビ一括入力

InDesign上で選択されている文章、InDesignドキュメントのすべての文字に対してまとめてルビを入力できる。その際、ルビの形式や対象となる文字などをあらかじめ設定しておくことが可能。

- ルビの種類：モノルビ、グループルビ
- ルビ文字の種類：ひらがな、カタカナ、英字のみカタカナ
- 拗促音使用の可否
- ルビ入れ対象となる親文字の設定：
 - 全ての漢字
 - 小学校○年生以上で習う漢字
 - 中学校以上で習う漢字
 - 常用漢字以外
 - カタカナ・英字・数字を対象にするか否か

②グループルビ（モノルビ）の一括変換

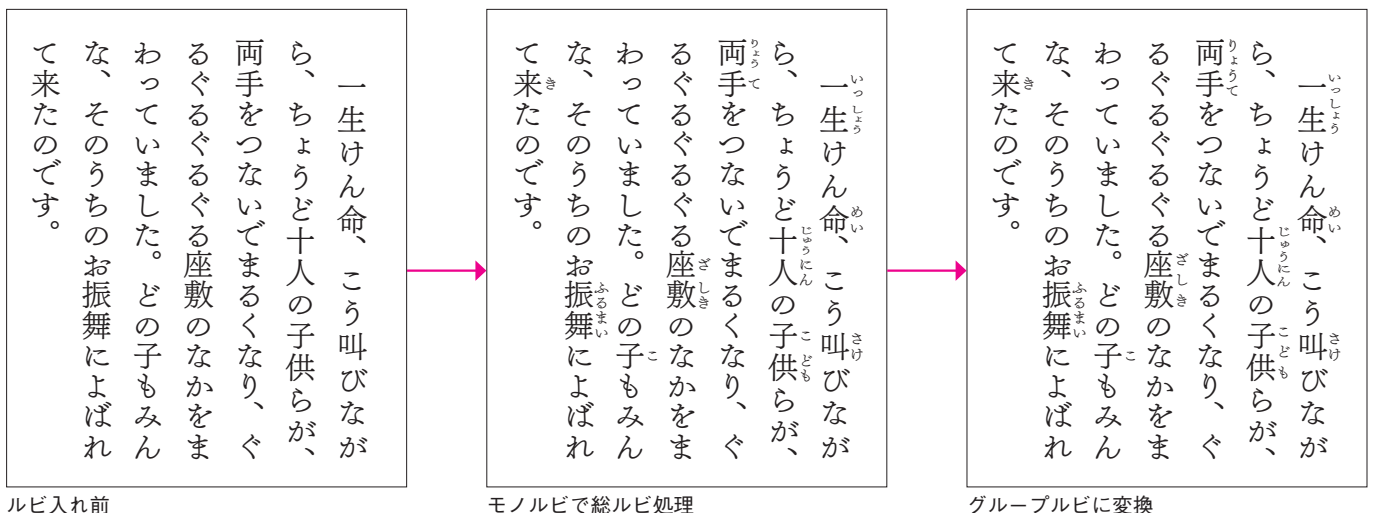
グループルビまたはモノルビに一括変換できる。Word上で設定されていても変更可能。

③拗促音使用可否のコントロール

一括して拗音、促音の可否を設定できる。

④ルビの表示／非表示の切り替え

ルビ文字の内容を記憶したまま、ルビの表示／非表示を個別に切り替えられる。



ルビ入れ前

モノルビで総ルビ処理

グループルビに変換

■Illustratorのルビ入力支援システム

雑誌やチラシ、ポスターなどは、Illustratorでデザインから組版まで完結させてしまうケースも少なくありません。ただし、Illustratorにはルビの機能が備わっていないため、ルビを入れる場合、漢字の上または右にルビ文字を一つ一つ手作業で配置していくことになり、総ルビの作業などは非常に効率が悪くミスも発生しやすくなります。

当社ではIllustratorデータも総ルビ化が可能なシス

テムを導入しています。Illustrator上で選択されているテキストに対して自動的にルビを付与することが可能です。

ただし、前述の通りIllustratorにはデフォルトでルビ機能がなく、このルビは親文字の近くに配置された小さなカナ文字に過ぎません。そのため、文字修正を行った際はルビが親文字と連動して移動しませんので、ある程度校了に近づいてからこの処理を行うことをお勧めしています。

「吾輩は猫である」の作者、夏目漱石の生涯

吾輩は猫である。名前はまだ無い。

どこで生れたかたと見当がつかぬ。何でも薄暗いじめじめした所でニャーニャー泣いていた事だけは記憶している。吾輩はここで始めて人間というものを見た。しかもあとで聞くとそれは書生という人間中で一番獰悪な種族であったそうだ。

この書生というのは時々我々を捕えて煮て食うという話である。しかしその当時は何という

Illustratorで組版された文書。Illustratorにはルビを入れる機能がありません。ルビは親文字の上に手作業で置いていく必要があります。

「吾輩は猫である」の作者、夏目漱石の生涯

吾輩は猫である。名前はまだ無い。

どこで生れたかたと見当がつかぬ。何でも薄暗いじめじめした所でニャーニャー泣いていた事だけは記憶している。吾輩はここで始めて人間というものを見た。しかもあとで聞くとそれは書生という人間中で一番獰悪な種族であったそうだ。

この書生というのは時々我々を捕えて煮て食うという話である。しかしその当時は何という

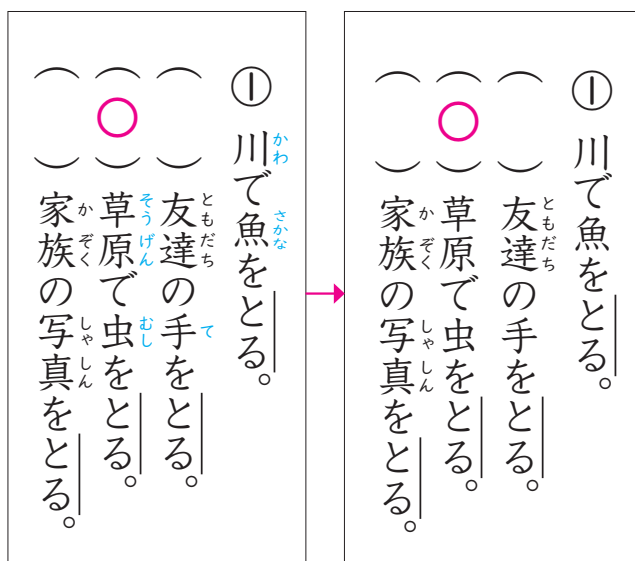
ルビ入力支援システムを使って総ルビ化した状態。親文字とルビの間隔やルビの級数、モノルビ・グループルビの指定も可能です。

■PitStopを活用したルビのレベル分け

最近の教科書や学習教材では、ハンディキャップのある学習者にも分け隔てなく情報を提供できるよう、難読文字のみにルビを入れた通常版とは別に、総ルビ版を作成するケースが出てきました。

このようなルビのレベル分けを効率よく行うため、当社ではPDFのプリフライト・編集・加工アプリケーションであるPitStopを活用しています。

最初に通常版のルビを入れ、その後に総ルビ版のルビを特色で入れていきます。この処理もルビ入力支援システムで自動で行っています。PitStopで総ルビ版のルビをオンまたはオフにすることで、元のデータは1つのまま、通常版と総ルビ版の2種類のPDFを作ることが可能となります。



PitStopを使用して総ルビ版のルビだけを削除します。
(実際のルビは全て同色になります)